

「地蔵盆」に関するアンケート調査結果

村上 忠喜

1. はじめに

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以後京都市文化財保護課という）では、平成25年9月から同年12月にかけて、地蔵盆に関するアンケート調査を実施した。その結果に関してはすでにHPにおいて概要を紹介し¹⁾、「京の地蔵盆～地域と世代をつなぐまちの伝統行事～」というリーフレットにまとめて無償配布している²⁾。しかしながら、設問の意図についてはこれまできちんとした説明をしていなかったとともに、分析についても、区ごとの集計のみであったので、この機会にあらためて調査の意図を含めて紹介しておきたい。

本アンケートは、「京都をつなぐ無形文化遺産制度」の第3号として選定された、「京の地蔵盆―地域と世代をつなぐまちの伝統行事」（選定日は平成26年11月20日）の選定文書作成を第一義的な目的としておこなった基礎調査のひとつである。

「京都をつなぐ無形文化遺産制度」は、平成25年12月、ユネスコの無形文化遺産に「和食」が登録（代表一覧表への記載）される動きの中で、京都市文化財保護課が立ち上げた制度である。本制度は、これまでのような文化財の指定や登録といった保護手法とは異なり、一般市民からの公募

により、市民が大事に思う無形の文化遺産を対象化し、それを顕彰、啓発していくことで、京都にとって大切な無形文化遺産の保護の機運を盛り上げて、市民生活の成熟化や、活性化に資するというねらいをもった制度である。

本制度の最大の特徴は、①対象となる無形の文化が市民公募により選ばれたものであること。②その魅力を発信することに重きを置く制度であること。そして③これまでの文化財のように所有者を特定しない、換言すれば所有者を特定できないような、市民の日常生活の中で伝承されてきた慣習などを無形文化として対象化することにある。

第1号は「京の食文化―大切にしたい心、受け継ぎたい知恵と味」（平成25年10月8日）、第2号は「京・花街の文化―いまも息づく伝統伎芸とおもてなし」（平成26年3月19日）、そして第3号が「京の地蔵盆―地域と世代をつなぐまちの伝統行事」である。

地蔵盆の選定にあたっては、市域における地蔵盆の実施状況の実態を知る必要があったため、地蔵盆の実施主体であると想定できた自治会や町内会に対して、アンケート調査を実施した。本稿はその調査のまとめである。

筆者は、同制度の直接の担当ではなかつ

だが、民俗担当技師として同アンケート調査の立案、入力作業指導及び解析について全面的に関わった。なお実務作業については、株式会社シー・ディー・アイの全面的な協力を得たこと、特に研究員の箕輪真紀氏と、当時アルバイトで入力作業していた寺村恵理子氏には大変お世話になった。冒頭に謝意を表したい。

さて、アンケートの解説に移る前に、京都市の「京都をつなぐ無形文化遺産制度」において地蔵盆を取り上げるにいたった、社会的な背景について簡単に触れておきたい³⁾。

近年京都では、地蔵盆がまちづくり関係に携わる方々の注目を集めている。研究論文も相当数にのぼっている。市域の地蔵や地蔵堂の圧倒的な分布量、近年縮小傾向にあるとはいえ地蔵盆のもつ「伝統的な」催事としてのスタンダード性、そしてなによりも行事主体が「対面接触可能範囲の地域社会」で行われてきた点が評価され、コミュニティ活性化の文化資源として、また新たなコミュニティ創成のツールとして注目されているのである。その背景には、阪神淡路大震災や東日本大震災発生時の対応や復興の過程において、コミュニティをはじめとする地域社会が果たした役割の高さを認識した、人々の「学び」があると思われる。「京都をつなぐ無形文化遺産制度」において地蔵盆が選ばれたのも、こうした社会背景があったと筆者は考えている。

一般的に町内会（あるいは部落会）は、昭和15年の大政翼賛会成立とともにその末端組織として位置付けられ、その結果、

アジア太平洋戦争後の戦後民主主義の風潮の中で、戦争協力機関として、封建遺制を色濃く残すものとして、一般社会からも強いバッシングを受けた。そのため戦後新たに開発された住宅地などでは、町内会の流れを汲むとみなされる自治会の設立にアレルギー反応をもち、自治会をつくらないという結論を出した地域も少なくない⁴⁾。基本的に町内会が主催単位となっていた地蔵盆は、そういった意味でもすでに維持継承が難しい時代を経てきているのである。

こうした歴史経過は京都も同様ではあるものの、町内会に対する評価はいささか複雑である。京都の都心部においては、明治以来の共同組合の組織が連合町内会へと移管されたこともあり、押しつけではない自治の伝統が町内会に継承されているという歴史認識は住民の中に共有されているという面もある。

また、地蔵盆は宗教行事であるか否かという議論と併行して、地蔵盆が自治会主催であることで、結果的に地蔵盆への参加強要を招来し、信教の自由を侵害しているといった認識も根強くあった。いやあるというべきかも知れない⁵⁾。日本の自治会組織は、〈多様な目的と機能を包括的に有する〉という意味での「ぐるみ」性格を特徴とするが、信教の自由の権利意識の浸透により、地蔵盆執行に自治会費を拠出する妥当性の是非が常に問われることになった。現在ではほとんどすべての自治会では、自治会費とは別に地蔵盆の費用を捻出しているし、組織的にも自治会と分けて、奉賛会組織等を作っているところも多い。また特に都市においては、地蔵堂の占有地の確保

に苦慮しているところであるが、公有地を貸借して地蔵堂を設置している場合がある。そうした事例について、政教分離の原則に違反しているのではないかという違憲訴訟も起こっており、最高裁の判決を見たとはいえ、この問題は今後も議論され続けていくことであるに違いない。

そうした問題を内包しつつも、経済優先型の社会から脱皮し成熟度を増しつつある日本社会が、高度経済成長期以降失いつつあったコミュニティー再編の救世主として、特に都市、なかんずく京都において地蔵盆が注目されてきているのである。

以上が、筆者が考える「京都をつなぐ無形文化遺産制度」の第3号として、「京の地蔵盆―地域と世代をつなぐまちの伝統行事」が選定された社会的背景である。

2. アンケートの手法と設問項目、及びその意図

アンケートは、配布と回答を円滑に行うという現実的な要請上、A4片面1枚に収める必要があった。よって、基本的な事項のみの設問となっている。内容の詳細よりも、市域における現在の地蔵盆の開催実態を広く知ることが目的の第一義としたためである。

アンケートは、市域の全自治会長・町内会長（6,627件）に対して配布、記入を依頼し、3,684件の有効回収を得た。有効回収率は55.6パーセントである。

設問は、大きく下記の6点である。

- ①回答団体の所在地等
- ②お地蔵さんの有無／箇所数と個体数
- ③平成25年度の地蔵盆実施の有無／開

催日

- ④地蔵盆の開催場所／移動したかどうか
- ⑤地蔵盆の実施主体
- ⑥地蔵盆で行った行事内容

では、逐一、設問の意図とその結果をみていこう。

① 回答団体の所在地等

ここでは、名称／所在地（区と学区）を尋ねている。本アンケート分析のための最も基本的な情報となるところである。多くは町名や、自治会名の記載であるが、なかにはマンションの管理団体の名前も見られる。本データが、回答に対する、歴史的背景等を知る唯一の手がかりであり、分析の要とする情報である。

本アンケートは自治会長・町内会長さんに対して回答をお願いした。地蔵盆の実施主体のほとんどが自治会・町内会であり、多くの自治会長・町内会長さんが地蔵盆実施の中心におられることは間違いないことであるが、地蔵盆が自治会や町内会の下部組織で行われているというケースもまま存在する。たとえば、路地に面した家々のみで地蔵を祀り、地蔵盆を奉斎するような場合もあるのである。そうした地蔵盆は、自治会や町内会が行うそれとは別に執行される例も予測された。このような事例を掬い取るという意味も込めて、設問②を設けた。

② お地蔵さんの有無／箇所数と個体数

地蔵が町内に何カ所祀られているのか、またその個体数を問うた設問である。その

【資料】調査票

「地藏盆」に関するアンケート

京都市は、「市民が残したい“京都をつなぐ無形文化遺産”制度」を創設し、世代を越えて伝えられてきた無形文化遺産を大切に引き継いでいくための取組を進めています。

この度、京都の大切な宝である「地藏盆」の実施状況等を調査するため、以下のアンケートを実施いたしますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

※ 選択式の設問は、該当する項目の□に印 (☑) を入れて下さい。

※ 「大日盆」などの盆行事も広く「地藏盆」に含めてご回答をお願いします。

(問1) 貴会 (自治会・町内会) について、お教えてください。

名称 _____ 所在地 (住所) _____ 区 _____ 学区 _____

(問2) 貴会の区域内にお地藏さんはありますか。

□① ある

↳ 何か所に何体ありますか。 () か所に 計 () 体

□② ない

↳ 地藏盆の時はお地藏さんを □(a) 借りてくる □(b) 仏画を使用する
□(c) その他 ()

(問3) 貴会では今年、地藏盆を行いましたか。

□① 行った。

↳ 開催日 ____月 ____日 ~ ____月 ____日
名 称 □(a) 地藏盆 □(b) 大日盆 □(c) その他 ()

□② 行わなかった。

↳ 過去に行っていた場合、何年まで行っていましたか。(昭和・平成・西暦) 年まで
↳ 地藏盆の代わりに行っている行事がありましたらお教えてください。
()
↳ 過去に行った地藏盆についてわかる範囲で、以下の質問にお答えください。

(問4) 地藏盆を行った場所はどこですか。

□① 地藏堂の前

□② その他

↳ □(a) 個人宅 □(b) ガレージ等の空地 □(c) 道路上
□(d) その他 ()
↳ その際、お地藏さんを移動しましたか。 □(a) はい □(b) いいえ

(問5) 地藏盆の実施主体はどこですか。

□① 自治会・町内会 □② 町内の隣組 □③ 町内の有志
□④ 複数の自治会・町内会が共同して □⑤ 町内の子供会
□⑥ マンションの管理組合 □⑦ その他 ()

(問6) 地藏盆で行った行事について、すべてお教えてください。

□① 僧侶の読経 □② 数珠回し □③ ご詠歌 □④ お地藏さんのお化粧
□⑤ お菓子配り □⑥ 福引 □⑦ ふごおろし □⑧ 盆踊り
□⑨ 一式飾り □⑩ その他 ()

◆ご記入いただいた方のお名前、ご連絡先を差し支えなければご記入ください

(お名前) _____ (電話番号) _____

質問は以上です。ご協力誠にありがとうございました。

このアンケートは、自治会・町内会アンケートといっしょに返信用封筒に入れて、ご返送ください。

【このアンケートに関するお問合せ先】

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 担当：伊藤，村上，平井
電 話：075-366-1498 / FAX：075-213-3366

意図するところは、先述の通りである。すなわち、旧都心部の場合は、表通りの家々とは別に路地や辻子で祀られているという実態が想定され、そうした事例を掘り取るうとしたのである。但し、この設問も、解析はそう単純ではないことは当初からわかっていた。

というのも、かつての郡部であり明治期以降に市街化していった地域は、都心部の両側町を基本にした個別町とは違い、一町内の面積が広いのが通常である。そうした地域では、かつての村組などの近隣組織が班となっているところが多数確認でき、そうしたところでは村組などの系譜をひく地縁組織が地蔵盆の開催主体となっていることも想定できたのである。よって、本設問は、全体的な傾向を知る際の参考数値以上のものにはならないと想定していた。

③ 平成25年度の地蔵盆実施の有無

／開催日

ここからが地蔵盆に関する設問となる。

まず地蔵盆の開催の有無と、その日取りを尋ねている。この設問の意図は特に記すまでもなく、現在の地蔵盆実施の実態と、開催日がどの程度地蔵の縁日である24日を意識しているかということを知るものだった。結果、実に2,902件、回答の78.8%の地域で地蔵盆が開催されていたことがわかった。この数値は、地蔵盆の実施率は現在においても「高い」、とすべき数値であろう。もちろん、アンケートに回答があった自治会や町内会は、地蔵盆を執り行っているところの方が多かった可能性は想定できる。しかしながら、本調査の前年、平成24年に行われた「自治会・町

内会活動に関するアンケート調査」⁶⁾においても、地蔵盆を開催した自治会が76.9%と、本調査とほぼ同様の比率を示している。いわゆる自治会・町内会活動全般のアンケート調査において、地蔵盆の開催に関する数値が近似しているということは、本調査の数値の妥当性の高さを示していると解してよい。

参考に、「自治会・町内会活動に関するアンケート調査」(平成24年度)の結果概要を記す。

京都市(文化市民局地域自治推進室)では、平成24年度に、市域の自治会長・町内会長を対象に、自治会・町内会活動に関するアンケート調査を行っている。本調査は、平成23年11月に公布された「京都市地域コミュニティ活性化推進条例」の推進にあたって、自治会や町内会の現状把握を目的としたもので、調査対象数(配布数)6,590件、回答数3,721件、回答率56.5%の大規模な調査であった。そのなかで、地蔵盆が出てくる結果が2例みられる。

ひとつは、自治会・町内会独自で取り組んでいる活動は何かという設問の中で、最も多かったのが「地蔵盆」で76.9%、次いで「葬儀等の手伝」が72.6%、「親睦の会食・旅行等」が46.5%と続く。いまひとつは、今後力を入れたい活動についての回答で、多い順から、「高齢者の見守り・交流」(46.3%)、「防火・防犯活動」(34.2%)、「防災訓練」(32.8%)、「清掃・美化」(26.6%)、「児童の見守り・交流」(25.3%)、そして「地蔵盆」(23.8%)となっている。

いまひとつの開催日の設問は、地蔵菩薩

の縁日である24日を中心とする日程がどのように変異しているのかを知るという意図をもって設問に加えた。平成25年は8月25日が日曜であったので、25日の開催が多くなっているが、特筆すべきは平成25年では8月18日の日曜開催が31.5%と最多であったことである。これは盆休み期間の後半開催へ移行してきていることを示しているのであろう。

④ 地蔵盆の開催場所

／移動したかどうか

この設問は、地蔵盆の開催場所を尋ねるものだが、同時に地蔵を移動して奉斎するかどうかを確認しようとしたものである。というのも、京都の都心部では、地蔵盆に際して地蔵を祠から出して各家持ち回りで斎場とする習俗が一般的であったという聞き取り成果や報告、また江戸時代の記録がある。果たしてそうした習俗は現在どの程度確認できるのか、また市域内でも地域的な差異はあるのかということを数的に確認するための設問であった。

⑤ 地蔵盆の実施主体

この設問は、地蔵盆の実施主体を問うたものである。地蔵盆は純然たる宗教行事であるとする立場の方もおられるので、宗教や信条とは関係ない地縁組織が主催することへの抵抗がある場合が想定できた。よって子供会などが主体となる場合も相当数あるのではないかと、また先ほど述べたように、村組（近隣組織）などの自治会・町内会の下部組織が主体となるケースも想定できた。

⑥ 地蔵盆で行った行事内容

この設問は、地蔵盆で実施された行事の把握を目的としたものである。設問に、僧侶の読経／数珠回し／ご詠歌／お地蔵さんのお化粧／お菓子配り／福引／ふごおろし／盆踊り／一式飾りの9つ選択肢を設けるとともに、「その他」として自由回答欄を設けた。このうち「一式飾り」に関しては、回答者に設問の意図がうまく伝わらなかった。というよりも設問者側の説明不足のため、回答できなかったのが実情である。一式飾りの一式は、一種類か同種類の道具や用品を用いて、テーマ性のあるつくりものを造作して見せるというものである。たとえば織物関係の同業者が集住する地域で、糸車や箆、糸などの機織り関係の道具だけを用いて、「巖流島の決闘」の場面を演出し、地蔵盆の際に飾って見せるというような、「見せる」ことにこだわった行事があるかどうかを問うたものであるが、回答数からしても、地蔵や地蔵小祠、あるいは祭壇を地蔵盆の際に飾ってみせることと解釈された回答者が多かったと想像される。

以上、アンケートの手法と設問項目設定の意図について述べた。

次に、行政区別の集計結果を確認しておく。この部分は、冒頭に記したように、すでに京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課のHP「京都の文化遺産」にPDF形式で掲載されているので、詳しくはそちらを参照いただきたいが、論を進める便宜上、本稿においても節を設けて要点のみ紹介したい。

3. 行政区別 アンケート集計結果の概要

① 行政区別の回答数（表1）

表1は、3,684件の有効回答数の区別の件数と、有効回答全体に占める百分率を示したものである。

(4.7) や北区 (4.5), 下京区 (3.6) で高い数値を示すのが、お地蔵さんを寺や他の場所で保管する町内である。お地蔵さんを移動させてでも保有しようという意思が感じられる事例である。

②-1 地蔵の有無について（表2）

表2は地蔵のあるなしについて、全体と区別のデータを記したもののだが、自治会・町内会のなかで、町内にお地蔵さんの「ある」ところが2,632箇所全体71.4%、「ない」ところが953箇所25.9%、所有はしているが寺に預けるなど別の場所に保管するところが80箇所2.2%、無回答が19で0.5%という結果である。

表1 ① 行政区別の回答数

区分	回答団体数	回答全体に占める比率 (%)
全体	3,684	100.0
北区	309	8.4
上京区	423	11.5
左京区	350	9.5
中京区	444	12.1
東山区	208	5.6
山科区	218	5.9
下京区	366	9.9
南区	214	5.8
右京区	349	9.5
西京区	159	4.3
伏見区	593	16.1
無回答	51	1.4

区別のデータでは、東山区が90.9%、上京区が84.4%と高い数値を示す。一方で、お地蔵さんのない自治会・町内会が高いのは西京区の54.1%である。また、全体のサンプル数が80と少ないものの、中京区

表2 ②-1 地蔵の有無について（数値単位は%）

	ある	ない	寺預けや別の場所に保管等	無回答
全体	71.4	25.9	2.2	0.5
北区	68.3	27.2	4.5	0.0
上京区	84.4	12.3	3.3	0.0
左京区	72.9	24.6	1.7	0.9
中京区	74.3	20.9	4.7	0.0
東山区	90.9	7.7	1.4	0.0
山科区	66.1	32.1	0.9	0.9
下京区	73.2	22.7	3.6	0.5
南区	71.0	27.6	1.4	0.0
右京区	72.2	26.9	0.6	0.3
西京区	44.7	54.1	0.0	1.3
伏見区	62.6	35.9	0.3	1.2

表3 ②-2 地蔵祭祀の場所数（数値単位は%）

	1か所	2か所	3か所以上	無回答
全体	80.7	10.1	5.5	3.8
北区	84.4	7.1	6.2	2.4
上京区	81.5	12.6	3.1	2.8
左京区	67.1	17.3	10.6	5.1
中京区	91.5	5.8	0.6	2.1
東山区	72.5	14.8	11.6	1.1
山科区	70.8	10.4	13.2	5.6
下京区	85.8	8.2	1.9	4.1
南区	81.6	8.6	5.3	4.6
右京区	82.9	7.1	7.1	2.8
西京区	73.2	11.3	5.6	9.9
伏見区	82.2	9.2	3.8	4.9

②-2 地蔵祭祀の場所数(表3)

地蔵の「ある／なし」にあわせて、「ある」と答えた町内(2,632)について、何カ所に何体祀っているのかについて問うた集計が表3である。「1か所」のみに祀るのが最も多く80.7%を占める。以下、「2か所」が10.1%、「3か所以上」が5.5%となっている。

区別の集計では、「1か所」のみが卓越するのは中京区(91.5%)で、逆に少ないのが山科区(70.8%)である。箇所数の多い自治会・町内会は、左京区(「2か所」と「3か所以上」の計27.9%)と東山区(同26.4%)、山科区(同23.6%)となる。第2節で述べたように、ほとんどが伝統的な都市域となる東山区と、村落域を数多く含む左京区や山科区の数値が近似しているからといっても解析は大きく異なるだろう。この点については、第4節で述べたい。ひとまず、アンケート結果を提示することに専念しよう。

表4 ②-3 地蔵の個体数(数値単位は%)

	1体	2体	3体以上	無回答
全体	62.7	14.7	18.2	4.4
北区	61.1	10.0	24.6	4.3
上京区	62.2	18.5	16.5	2.8
左京区	47.1	14.5	32.5	5.5
中京区	76.4	14.8	6.1	2.7
東山区	49.7	20.6	27.0	2.6
山科区	55.6	9.7	26.4	8.3
下京区	72.4	16.0	8.2	3.4
南区	65.1	13.8	17.8	3.3
右京区	64.7	10.7	21.4	3.2
西京区	57.7	14.1	16.9	11.3
伏見区	64.7	14.6	14.6	6.2

②-3 地蔵の個体数(表4)

お地蔵さんがあると答えた場合、何体あるかという地蔵の個体数を問うた設問である。この設問は「②-2」とセットとなるもので、互いにデータを補完して一町内での地蔵の存在形態を知るように考えたものである。

全体では「1体」が62.7%、「2体」が14.7%、「3体以上」が18.2%である。行政区別にみると、「1体」の自治会・町内会は中京区(76.4%)と下京区(72.4%)に多く、一方、個体数の多い自治会・町内会は、左京区(「2体」と「3体以上」の計47.0%)と東山区(同47.6%)であった。この数値の解釈も②-2同様である。

③-1 地蔵盆の開催(表5)

2,902の町内会、実に市域の78.8%で地蔵盆が行われているという高い数値が出た。行わなかったところは747箇所、20.3%である。特にお地蔵さんを所有する2,902の自治会・町内会では、地蔵盆を

表5 地蔵盆の開催(数値単位は%)

	行った	行わなかった	無回答
全体	78.8	20.3	1.0
北区	85.1	14.6	0.3
上京区	88.7	11.1	0.6
左京区	72.9	26.0	1.3
中京区	85.1	14.2	1.0
東山区	90.4	9.1	0.3
山科区	76.6	22.9	0.3
下京区	81.4	17.5	1.3
南区	78.0	21.0	0.6
右京区	81.9	17.2	1.0
西京区	65.4	34.0	0.3
伏見区	66.4	32.2	2.6

行っているのが94.3%という高数値である。また町内にはお地蔵さんはないが、寺に預けている、あるいは他の場所に保管している80地区のうちで、地蔵盆を行ったのは70地区で、87.5%にのぼった。またお地蔵さんがないにもかかわらず地蔵盆を行ったところは349地区で、お地蔵さんがない953地区の36.6%にあたる。当然の結果であるが、地蔵を所有する地区に、地蔵盆の執行率が高くなっている。

一方、お地蔵さんはあるが地蔵盆をしなかったのは、133地区で、地蔵を所有する2,632地区の5.1%にあたる。

お地蔵さんはないが地蔵盆を行った349地域で、執行にあたってお地蔵さん本体をどうしたかを聞くと、「借りてくる」が91地域(26.1%)、「仏画を使用する」が82地域(23.5%)、「その他」が119地域(34.1%)となっている。「その他」の内容は、67地域(119地域の56.3%)が、夏祭りという名称で行う、子供祭りとして行う、何も置かない、といった「地蔵なしで済ませる」というものである。これを地蔵盆というかどうか難しいところであるが、回答者本人が地蔵のない夏祭りを地蔵盆と認識しているところを評価した集計である。

また、子どもが少ない、あるいはお地蔵さんを共同管理している関係から、「近くの町内会と合同で行う」「別の町内会地蔵盆に参加させてもらう」「地蔵尊を持ち回りする」と回答した地域が19箇所、「お寺で行う」「お寺をお参りする」のは9地域(寺に預けている町内会とは別)だが、お地蔵さんは子供たちが毎年描く、など「自分たちで作っている」町内会も4地域あつ

た。

以上、市域内での地蔵盆の多様な在り方がうかがえる結果となった。

行政区別の集計では、地蔵盆の執行率が高いのが東山区(90.4%)、上京区(88.7%)であり、一方比率が低いのが西京区(65.4%)、伏見区(66.4%)であった。

※伏見区のこの数値は、第4節で再分析の対象とする。

③-2 地蔵盆の開催日数・

開催日と名称

地蔵盆を執行した2,902地区において、地蔵盆を何日間開催したかについて問うたところ、「1日のみ」が77.9%と大半を占めた。数十年前までは2日間行われることが通常だった時代を考えれば、開催日数だけを考えればいぶん縮小化してきていることがうかがえる結果となった。ちなみに「2日間開催」は18.9%である。

開催日については、調査年の平成5年は、8月18日と25日が日曜であったことにより、盂蘭盆直後の土日である8月17日(11.9%)・18日(31.5%)と、翌週の土日である24日(29.8%)・25日(30.9%)と、この4日間に集中している(※この数値は複数回答可の数値)。以前は地蔵の縁日にあわせた22から24日開催がほとんどであったが、小学校の夏季休暇の短縮や、お盆休みとの関係もあり、開催日がお盆休みの期間に前倒しされている傾向が窺える。

地蔵盆の名称であるが、ほとんどが「地蔵盆」であったものの、「大日盆」(4.9%)と呼ぶところもある。「大日盆」と称するところが目立って多かったのが東山区

(14.9%)である。

④-1 地蔵盆の開催場所 (表6)

地蔵盆を行った場所は、「地蔵堂の前」が最も多く(38.9%),それ以外は「個人宅」(22.8%),「ガレージ等の空き地」(17.0%),「集会所・公園等」(12.0%),「道路上」(10.6%)となっている。

行政区別にみると、「地蔵堂の前」で行う自治会・町内会が多いのは東山区(55.9%)である。「個人宅」で行うところが多いのは上京区(36.6%),中京区(34.7%),下京区(32.2%)であり、とくに上京区と中京区は「地蔵堂の前」よりも多くなっている。「集会所,公園等」が目立って多いのは西京区であり(29.8%),ここでは逆に、「個人宅」が5.8%と少ない。

山科区も,西京区と同様「個人宅」が少ない(5.4%)。「集会所,公園等」(20.4%)も比較的多いが,他の区と比べると「道路上」が目立って多い(19.8%)。

表6 ④-1 地蔵盆の開催場所 (数値単位は%)

	①地蔵堂の前	②その他						無回答
		個人宅	ガレージ等の空き地	集会所,公園等	道路上	寺社	その他	
全体	38.9	22.8	17.0	12.0	10.6	5.0	1.3	0.9
北区	45.6	16.3	11.0	12.9	10.6	4.2	0.8	0.8
上京区	31.8	36.6	19.3	5.9	2.9	5.6	0	0.5
左京区	42.7	9.0	16.1	12.2	12.2	6.3	0.8	1.6
中京区	32.3	34.7	13.5	5.0	6.6	6.9	0.5	0.8
東山区	55.9	16.0	12.8	3.7	6.4	6.9	0	0.5
山科区	41.3	5.4	11.4	20.4	19.8	2.4	0.6	0.6
下京区	40.3	32.2	10.7	5.0	3.7	6.7	1.7	0.3
南区	44.9	12.6	16.8	14.4	9.0	2.4	1.2	1.8
右京区	36.7	9.4	19.9	16.1	13.6	3.8	1.0	1.7
西京区	37.5	5.8	10.6	29.8	11.5	1.9	2.9	1.0
伏見区	34.8	19.3	15.5	20.1	5.1	3.3	2.5	0.5

④-2 地蔵を移動したか否か (表7)

「その他」の回答者に,お地蔵さんを移動したか,を尋ねると,「移動した」が809件/42.7%,「移動していない」が243件/12.8%,無回答が841件/44.5%であった。この設問は,表6の補完という意図をもっていたのであるが,設問の意図がうまく伝わらなかった可能性があり,純粹に地蔵盆をする際に地蔵を移動したか否かに

表7 ④-2 地蔵を移動したか否か

	移動した		移動しなかった	
	件数	%	件数	%
全体	809	76.9	243	23.1
北区	59	72.8	22	27.2
上京区	138	84.7	25	15.3
左京区	67	69.8	29	30.2
中京区	114	78.6	31	21.4
東山区	37	68.5	17	31.5
山科区	42	76.4	13	23.6
下京区	77	81.1	18	18.9
南区	41	80.4	10	19.6
右京区	73	69.5	32	30.5
西京区	13	48.2	14	51.8
伏見区	139	82.7	29	17.3

ついて回答したものとして捉えた方がよいと判断した。無回答を考慮外として、地蔵盆の際に地蔵を移動したか否かで、行政区別に見たのが表7である。行政区別にみると、「移動した」町内会が比較的多いのは、上京区（84.7%）、伏見区（82.7%）、下京区（81.1%）、そして南区（80.4%）である。「移動していない」町内会が多いのは、西京区（51.8%）となっている。

⑤ 地蔵盆の実施主体（表8）

地蔵盆の実施主体は全回答数2,902件のうち、圧倒的に「自治会・町内会」が高く、2,429件/83.7%を占める。以下、「町内の隣組」が242件/8.3%、「町内の有志」が136件/4.7%、「複数の自治会・町内会が共同して」が54件/1.9%、「町内の子供会」が130件/4.5%、「マンションの管理組合」が12件/0.4%となっている。

これだけ圧倒的な数値が出ているので、行政区別の傾向も明確ではないが、あくま

でも傾向として「自治会・町内会」が少ないのは左京区（74.5%）、南区（71.3%）であり、その代わりに「町内の隣組」や「町内の有志」が比較的多くなっていることが指摘できる。「町内の隣組」「町内の有志」を合わせて約20%に達するのは、上述の左京区・南区と、東山区となっている。

「町内の子供会」が主催するケースが多いのは、西京区（14.4%）と山科区（12.0%）である。西京区は、「町内の隣組」も「町内の有志」もほとんどなく、「町内の子供会」だけが全体傾向より10ポイント高いのが特徴である。

⑥ 地蔵盆で行った行事（表9）

現行の地蔵盆でどのような行事が行われているのか。本来は、もっと多彩であるとは思うのだが、アンケートの都合上、こちらが設定した行事内容に答えていただくことで、全体的な、そして地域的な傾向を読もうとした。

表8 地蔵盆の実施主体（数値単位は%）

	①自治会・町内会	②町内の隣組	③町内の有志	④複数の自治会・町内会が共同して	⑤町内の子供会	⑥マンションの管理組合	⑦その他	無回答
全体	83.7	8.3	4.7	1.9	4.5	0.4	1.5	1.1
北区	82.5	8.4	4.9	2.3	2.3	0.0	2.3	1.5
上京区	89.8	8.0	2.4	0.5	1.3	0.3	0.8	0.5
左京区	74.5	10.2	9.0	3.5	5.9	0.8	3.5	1.6
中京区	85.7	9.3	3.2	1.6	1.6	0.5	0.5	1.3
東山区	81.4	11.7	8.0	0.5	1.6	0.5	0.0	1.1
山科区	82.0	3.6	7.2	1.8	12.0	0.6	4.2	1.2
下京区	86.2	9.7	5.0	1.0	2.3	0.0	0.7	0.3
南区	71.3	11.4	8.4	4.8	5.4	1.2	1.8	1.8
右京区	86.0	4.9	3.5	3.1	9.1	0.3	1.0	0.3
西京区	84.6	1.9	0.0	1.0	14.4	0.0	1.9	2.9
伏見区	87.1	8.4	2.5	1.5	4.1	0.3	1.5	0.8

全回答数2,902件のうち、最も多かったのが「お菓子配り」で2,902地区のうち実に2,626地区で行われ、回答のあった90.5%の地区で行われている。以下多い方から、「福引」が1,960件/67.5%、「一式飾り」が1,725件/59.4%、「僧侶の読経」が1,513件/52.1%、「数珠回し」が1,233件/42.5%、「お地藏さんの化粧」が1,061件/36.6%となっている。

但し「一式飾り」については、地藏の荘厳のことに捉えられてしまったようである。これは設問者側の不備であった。本来一式飾りは、限られた種類の日用品や生業具などを材料とし、何かのテーマに沿った飾り付けをさす。たとえばかつて西陣では、織物の道具や糸を使って人形などを地藏盆に合わせて飾って、道行く人の目を楽しませた。

行政区別にみた特徴は、さほど明確には出ないものの、

- ・「僧侶の読経」が下京区（67.1%）と東山区（60.1%）に多い。
- ・「数珠回し」が上京区（66.0%）と中京区（53.4%）、北区（52.1%）に多い。
- ・「お地藏さんの化粧」が南区（59.3%）と伏見区（46.2%）に多い。
- ・「盆踊り」はほとんど行われませんが、西京区（10.6%）が突出している。

ということが指摘できるだろう。

以上が、先のアンケート結果の概要である。

では次に、このアンケートの主たる分析視角であった、都市部と村落部の差異という視点でもう一度、一部のデータを再集計してみる。

表9 地藏盆で行った行事（数値単位は%）

	お菓子配り	福引	一式飾り	僧侶の読経	数珠回し	お地藏さんのお化粧	ご詠歌	盆踊り	ふごおろし	その他	無回答
全体	90.5	67.5	59.4	52.1	42.5	36.6	10.2	1.8	1.1	38.2	1.1
北区	93.2	73.4	61.6	57.0	52.1	31.2	6.5	1.1	0.8	37.3	1.1
上京区	93.9	65.8	72.5	57.2	66.0	24.9	3.7	0.3	2.4	38.2	0.0
左京区	93.3	68.6	49.4	40.4	28.2	39.2	15.7	2.0	1.6	48.6	2.7
中京区	92.1	66.1	68.8	58.7	53.4	30.4	8.7	1.1	1.6	35.7	0.0
東山区	80.9	54.3	62.8	60.1	33.5	37.8	4.3	1.1	0.5	37.8	1.1
山科区	94.0	80.8	45.5	46.1	31.1	41.3	2.4	3.6	1.2	42.5	1.8
下京区	84.2	53.0	65.8	67.1	41.3	31.5	6.0	0.7	0.7	29.5	0.7
南区	88.0	62.3	55.7	52.7	16.8	59.3	7.8	0.6	0.0	39.5	1.2
右京区	94.4	86.0	51.4	50.0	27.6	42.3	12.9	1.7	0.7	37.8	1.4
西京区	88.5	76.0	36.5	30.8	17.3	25.0	8.7	10.6	0.0	46.2	3.8
伏見区	90.6	65.5	58.6	39.6	51.3	46.2	25.4	2.8	0.8	38.6	0.8

4. 旧都市域と旧村落域の対比

本節では、都市域の地蔵盆と村落域のそれが、どういった点で相違し、また近似しているかということを経数的に捉まえて示し、今後の研究に供したい。

但し、都市域と村落域の区別は相当に難問である。日本の大都市は、明治以降人口が急増し、周辺の近隣農村が開発され、行政的にも徐々に周辺部を編入してきた歴史を持つ。京都市においても同様である。加えて都市としての成立が他と比べて格段に歴史のある京都では、都市化の内容も年代もまちまちであり、さらに両者の区分を困難としている。しかしどこかで線引きせざるを得ないので、京都市における地蔵盆の都市的／村落的な傾向をアンケート集計の結果で比較するという目的に沿って、都市域の範囲を狭めに設定した。具体的には、旧京都市と旧伏見市の中で次のエリアに入る町々を都市域と設定した。

○旧京都市：明治2年に設定された町組に所属する町⁷⁾

○旧伏見市：明治12年(1879)段階の伏見市の公称町名⁸⁾

そして、それ以外の地域をすべて村落域とした。もちろん村落域内には、たとえば宿場町、門前町的な町場は多数存在したわけであるが今回は考慮外とした。

結果、京都の中でもいわゆる「伝統的な」都市生活の舞台となった旧都市域として抽出したのが、上京区的全町、そして中京区、下京区、東山区、伏見区の一部である。今回のアンケートの回答数としては、1,223の個別町数となった。対する旧村落域は、上京区を除くすべての区のすべてか一部で、今回のアンケートの回答数としては、2,410の個別町数となった(表10)。

① 地蔵の有無についての比較(表11)

上記の都市域／村落域ごとに、地蔵の有無を集計したのが表11である。全体としては、都市域では「ある」が975町で、都市域全体の町数の79.7%、一方で村落域では「ある」が1,624町で、村落域全体の67.4%となった。3-②-1(表2)と比較すれば、全体では、旧都市域での地蔵の保有率の高さが明らかになった。特に、伏見区においては、区別の統計では62.6%であったのが、都市域だけ抽出すれば、90.1%という高比率を示している。

旧都市域・旧村落域双方にまたがる区のうち、旧村落域の地蔵保有率が旧都市域のそれを上回るのが、中京区と下京区の2つの区である。両者は、京都駅から四条、御池界限を含む京都市内の都心部である。オフィス街や繁華街をふくむこのエリア

表10 本アンケートの旧都市域・旧村落域別回収数

区名	旧都市域の町数	旧村落域の町数	計	無回答
北区	0	309	309	3.8
上京区	423	0	423	2.4
左京区	21	329	350	2.8
中京区	239	205	444	5.1
東山区	167	40	208	2.1
山科区	0	218	218	1.1
下京区	262	104	366	5.6
南区	0	214	214	4.1
右京区	0	349	349	4.6
西京区	0	159	159	2.8
伏見区	111	483	593	9.9
計	1,223	2,410	3,633	4.9

は夜間人口ゼロの町もみられる。

② 地蔵盆の開催についての比較 (表12)

平成25年に地蔵盆を行ったか否かの旧都市域と旧村落域の比較である。3節の③-1 (表5) と対照して述べる。

旧都市域での開催比率が、旧村落域に比

べて10ポイント以上高い。また旧村落域においても、北・中京・東山では85%以上の高い開催率を示す。伏見についてはより明確に旧都市域と旧村落域の差が出た。3節の③-1 (表5) の区全体では、伏見区は66.4%の開催比率であったが旧都市部のみ取り出せば89.2%の高率を示した。

表11 地蔵の有無 (旧都市域/旧村落域)

	都市域						村落域					
	ある		なし		預け		ある		なし		預け	
	町数	%	町数	%	町数	%	町数	%	町数	%	町数	%
全体	975	79.7	198	16.2	48	3.9	1624	67.4	739	30.7	32	1.3
北	0	0.0	0	0.0	0	0.0	211	68.3	84	27.2	14	4.5
上京	357	84.4	52	12.3	14	3.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
左京	19	90.5	2	9.5	0	0.0	236	71.7	84	25.5	6	2.8
中京	158	66.1	62	25.9	19	7.9	172	84.0	31	15.1	2	1.0
東山	154	92.2	11	6.6	2	1.2	34	85.0	5	12.5	1	2.5
山科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	144	66.1	70	32.1	2	0.9
下京	187	71.3	60	22.9	13	5.0	81	77.9	23	22.1	0	0.0
南	0	0.0	0	0.0	0	0.0	152	71.0	59	27.6	3	1.4
右京	0	0.0	0	0.0	0	0.0	252	72.2	94	27.0	2	0.6
西京	0	0.0	0	0.0	0	0.0	71	44.7	86	54.9	0	0.0
伏見	100	90.1	11	10.0	0	0.0	271	56.1	203	42.0	2	0.4

表12 地蔵盆の開催 (旧都市域/旧村落域)

	旧都市域						旧村落域					
	行った		行わなかった		無回答		行った		行わなかった		無回答	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
全体	1,053	86.1	164	13.4	6	0.5	1,848	75.1	584	23.7	29	1.2
北	0	0.0	0	0.0	0	0.0	263	85.1	45	14.6	1	0.3
上京	374	88.4	47	11.1	2	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
左京	18	85.7	3	14.3	0	0.0	237	72.0	88	26.7	4	1.3
中京	194	81.2	43	18.0	2	0.2	184	89.8	20	9.8	1	0.3
東山	153	91.6	14	8.4	0	0.0	34	85.0	5	12.5	1	0.3
山科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	167	76.6	50	22.9	1	0.3
下京	215	82.1	45	17.2	2	0.2	83	79.8	19	18.3	2	0.6
南	0	0.0	0	0.0	0	0.0	167	78.0	45	21.0	2	0.6
右京	0	0.0	0	0.0	0	0.0	286	81.9	60	17.2	3	1.0
西京	0	0.0	0	0.0	0	0.0	104	65.4	54	34.0	1	0.3
伏見	99	89.2	12	10.8	0	0.0	295	61.1	180	37.3	8	2.6

③ 地蔵盆の際に地蔵を移動したかについての比較 (表13)

地蔵盆の際に地蔵を移動したか否かについて、旧都市域と旧村落域を比較すると、僅差ではあるが全体で7ポイント旧都市域の方が高い。都市域のなかでも、上京、左京、下京、伏見の4区が80%を超えて高い数値をみせる。京都の町家では地蔵盆の際には、地蔵堂から地蔵を出して、当番制でまわしていったという伝承を裏付ける数値である。

一方、地蔵盆の開催比率が91.6%と最高値を示した東山区の旧都市域 (表12)

で、地蔵を移動したのは71.4%にとどまった。

また、旧村落域で際立って移動の比率が低いのが西京区 (48.2%) である。

地蔵盆の開催場所については、第3節で区別の数値 (表6) をもとに述べたが、ここではそれを補完して、旧都市域だけ抽出した数値 (表14) (地蔵堂の前と個人宅で開催された数値) を記しておく。このように、旧都市域においては、個人宅にて行われる比率が高くなっている。すなわち地蔵の移動を行うケースが多いことを裏付けている。

表13 地蔵盆の際に地蔵を移動したかについての比較

	旧都市域				旧村落域			
	移動した		移動しなかった		移動した		移動しなかった	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
全体	337	81.0	79	19.0	472	74.3	163	25.7
北	0	0.0	0	0.0	59	72.8	22	27.2
上京	138	84.7	25	15.3	0	0.0	0	0.0
左京	6	85.7	1	14.3	61	68.5	28	31.5
中京	56	71.8	22	28.2	58	86.6	9	13.4
東山	30	71.4	12	28.6	7	63.6	4	36.4
山科	0	0.0	0	0.0	42	76.4	13	23.6
下京	55	85.9	9	14.1	22	71.0	9	29.1
南	0	0.0	0	0.0	41	80.4	10	19.6
右京	0	0.0	0	0.0	73	69.5	32	30.5
西京	0	0.0	0	0.0	13	48.2	14	51.8
伏見	51	85.0	9	15.0	88	81.5	20	18.5

(表6の一部)

	地蔵堂	個人宅
上京区	31.8	36.6
中京区	32.3	34.7
東山区	55.9	16.0
下京区	40.3	32.2
伏見区	34.8	19.3



表14 旧都市域のみ抽出

	地蔵堂	個人宅
上京区	31.8	36.6
中京区	23.7	42.8
東山区	53.6	18.3
下京区	40.0	37.7
伏見区	25.3	37.4

④ 地蔵盆の行事内容の比較（表15）

地蔵盆の行事内容を、旧都市域での多い順に比較して示した。大きく異なることはないが、福引が旧村落域の方が20ポイント、地蔵の化粧が15ポイント多くなっている。また僧侶の読経、数珠回しについては、旧都市域が旧村落域をそれぞれ10ポイント、20ポイント上回る。数値的には目立たないが、盆踊りが旧都市域で0.5%、旧村落域で2.5%の開催比率である。京都の地蔵盆には盆踊りが付随することはほとんどないことがわかってはいたが、それを裏付ける数値である。ちなみに【表9】の区ごとの集計では、西京区が10.6%の地区で盆踊りを開催しているが、この数値は他の区を大きく引き離して高い数値である。

表15 地蔵盆の行事内容の比較

行事内容	都市域		村落域	
	のべ件数	%	のべ件数	%
お菓子配り	922	87.6	1703	92.2
福引	589	55.9	1371	74.2
一式飾り	707	67.1	1017	55.0
僧侶の読経	610	57.9	902	48.8
数珠回し	608	57.7	625	33.8
お地蔵さんのお化粧	278	26.4	783	42.4
ご詠歌	88	8.4	208	11.3
盆踊り	5	0.5	47	2.5
ふごおろし	19	1.8	13	0.7
その他	370	35.1	739	40
無回答	4	0.4	29	1.6

5. まとめにかえて

以上、平成25年9月から同年12月にかけておこなった地蔵盆に関するアンケート調査の結果を、その意図、旧都市域／旧村落域の対比分析とともにまとめた。この結果から得られた知見は、地蔵盆執行に関しては、一般的な理解と違い、旧都市域でより強い伝承力を保っているという事実である。この事実は、京都の民俗文化研究において、再確認すべき知見であると思う。と同時に、地蔵盆の現代的な意義を模索していく手がかりの一つになることは間違いない。

註・参考引用文献

- 1) http://kyo-tsunagu.net/wp-content/uploads/2014/05/jizo_bon.pdf
- 2) 京都市文化財保護課『京の地蔵盆～地域と世代をつなぐまちの伝統行事～』A5版、2015年3月、32頁。
- 3) 地蔵盆の研究は、①民俗学・宗教学的ないわゆる人文系の研究と、②都市計画系、建築系のそれに大別される。また他に地蔵盆が子供を対象とする側面が強いことから、教育学の論考が若干みられる。この二つの流れを対比すれば、近年の地蔵盆研究は、都市計画系、建築系の論考がその量からいっても圧倒的となってきている。これらの研究には、①研究対象地域が、村落域ではなく、都市域、もしくは都市化地域に偏っていること。②地域空間の中での地蔵・地蔵堂の立地、及び地蔵盆の開催空間の研究が主軸になっていること。③地蔵盆が地域コミュニティの維持形成に果たす役割の分析へと進んできていること。という傾向が指摘できるだろう。なお、最近京都の地蔵盆の

- 歴史を統括する好書が編まれた。
- 村上紀夫『京都・地蔵盆の歴史』、法蔵館、2017年。
- 4) たとえば、長岡京市役所『長岡京市史民俗編』(1992年)は、京都のベッドタウンとして急成長した長岡京市域の自治会活動の詳細を報告している。また筆者は、同調査の成果から、神社祭祀に奉賛会組織が導入されていく経過を論じた。
- 村上忠喜「都市近郊農村における自治会と神社祭祀—混住化地域における自治会と神社祭祀—」『佛教学総合研究所紀要3』、1996年。
- 5) 地蔵建設をめぐる最高裁判決として有名なのが大阪市地蔵訴訟である。これは、市営住宅の建て替えに際して、大阪市が市有地を無償で町会に提供したことが政教分離に反すると、大阪市長を相手に違憲確認を求めた訴訟で、大阪地裁が1986年、大阪高裁が1991年、そして最高裁が1992年に、原告敗訴の判決が出ている。すなわち、寺院外の地蔵は習俗化し宗教性が希薄であるという認識を司法が行ったわけである。
- 6) <http://www5.city.kyoto.jp/chiiki-npo/news/jichikai/30/1365553745.pdf>
- 7) 旧上京・下京それぞれ1番から33番までの番組小区に属する町を対象とした。
- 8) 過去に存在した町組や「区」に相当する行政区画は現在では存在しないが、便宜上明治12年(1879)、旧4区が6組に分かれた時点の区分を採用した。旧伏水第1組に属した町名は明治12年(1879)時点では35町であったが、変更を経て現在は4町である。
- 旧伏水第2組に属した町名は明治12年時点では35町であったが、変更を経て現在は46町である。
- 旧伏水第3組は30町であったが、変更を経て現在は29町。
- 旧伏水第4組は40町であったが、現在は33町である。
- 旧伏水第5組は35町であったが、変更を経て現在は32町。
- 旧伏水第6組は28町であったが、変更を経て現在は24町。その他14町を加えて、現182町を旧都市域とした。

むらかみ ただよし
村上 忠喜 (京都市歴史資料館 担当係長・文化財保護課 担当係長)